

様式(細則 5-2)

令和 3 年 2 月 19 日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 西川 真午



## 調査研究活動報告書

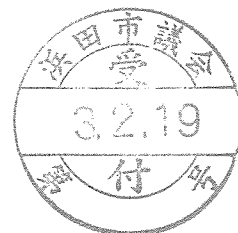
下記のとおり調査研究のため(視察 **研修**)を(実施 **受講**)したので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 令和 3 年 2 月 8 日 (月) 14:00 から  
令和 3 年 2 月 8 日 (月) 16:30 まで
2. 視察・研修内容 『議会改革の新たなツール オンラインの可能性を探る!』
3. 視察先又は研修先 ローカル・マニフェスト推進連盟 (オンライン研修)
4. 調査経費 5,000 円 (参加費)
5. 調査研究活動の概要

#### 第 1 部

- ① テーマ: コロナ禍の議会とオンラインの可能性  
講 師: 早稲田大学名誉教授 北川 正恭  
法政大学教授 広瀬 克哉
- ② テーマ: 全国の議会のオンライン活用状況  
講 師: 早稲田大学マニフェスト研究所理事長 中村 健



## 第2部

- ① テーマ：取手市議会のリアルトーク  
～どこでもできる議会のオンライン～  
講師：取手市議会・同事務局

### 6. 所感

コロナ禍での社会活動はオンラインの導入が進んでいる。浜田市議会においても一部の研修をオンラインで行うなど、取組を始めているところである。

オンラインのメリットは集合会議による感染拡大を防止するためだけでなく、会議のための移動の時間や経費を削減し、効率化が図られることでもあり、コロナの収束後もその活用は進化していくと考えられる。

本研修では、『デモテック=Democracy(民主主義)+Technology(技術)』という考えが提案され、議会活動へのオンラインの活用について専門家による解説と、実際に取り組んでいる取手市議会の実践例の紹介があった。

議会でのオンライン活用は、研修だけでなく現地確認や現地視察などにも適用でき、取手市議会では議案審議の討論の前まではオンラインで実施している。

今後は市民とのコミュニケーションツールとしての活用も考えられ、議会としてオンライン活用のルール作りが必要となると感じた。